

都城市議会議長 様

提出日 令和3年11月30日

視 察 報 告 書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 委員会名及び視察者名

委員会名：文教厚生委員会

視察者名：別府英樹、岩元弘樹、杉村義秀、迫間輝昭、音堅良一、森りえ、川内賢幸

2 視察先・テーマ及び日時

視 察 先：北九州市（福岡県）

（Web 会議サービス「zoom」を使用したオンライン方式による視察）

テ ー マ：「子ども電子図書館」について

日 時：令和3年11月12日（金） 午前10時から午前11時まで

場 所：都城市役所 本庁舎5階 2号委員会室

3 視察の内容

(1) 「子ども電子図書館」の設置目的等

子どもの読書活動や学習機会の確保。小中学生に配備されるタブレット端末の活用策。

(2) 電子図書館とは

令和3年4月23日（子ども読書の日）に開設。

Web 上にあるクラウド型の電子図書館に24時間、どこからでもアクセスでき、検索・貸出・返却・閲覧ができる。期限が来ると自動返却され、学習支援としてドリル等もある。

利用者の範囲は、北九州市に居住、通学、通勤している者で、大人の利用も可。専用ID・パスワードが必要。

(3) 電子書籍について

蔵書は約2,000冊。貸出期間は回転数を重視し1週間以内。同時に3冊まで。

4 視察の感想

(別紙添付)

5 視察の成果及び市政への反映等

(別紙添付)

6 添付資料

なし

都城市議会議長 様

提出日 令和3年11月30日

視 察 報 告 書

委員長 別府 英樹

以下のとおり視察の報告をいたします。

4 視察の感想

新しい教育の取組として大変興味深い方向を示してくれた。コロナ禍で学校に行けなかったり、図書館に行けなかったり、自宅に本がなかったりするような状況であっても、電子書籍を読めることで、子ども達の学びを止めないという点でも素晴らしい。学力と家庭の蔵書数には、2021年度の全国学習状況調査でも正の相関があることが明らかになっている。図書館に行けなくても、行くことが難しい地域に住んでいても、いつでも本が手軽に読むことができるようにする環境づくりは、将来に向けて積極的に取り組まねばならないと感じた。

5 視察の成果及び市政への反映等

電子図書館を開設するまでには多くのハードルがあることが分かった。特に、書籍ごとにライセンスがあるということについては初めて知った。著作権という視点からすると当たり前のことではあるが、ライセンスという形で電子図書の利用許可を与えるということは納得できるものである。しかし、随分高価であり図書館での利用拡大には難しさを感じたが、方向性としては間違っていないし、活用の可能性は高い。本市では、北九州市とはひと味違った形での導入を前向きに検討できるとよいと思う。

都城市議会議長 様

提出日 令和3年11月19日

視 察 報 告 書

副委員長 岩元 弘樹

以下のとおり視察の報告をいたします。

4 視察の感想

子ども電子図書館の視察ということで、図書館に行かずして本の貸し出しができるということで大変興味があった。

令和3年4月からの共用開始で、まだ半年程度しか経っていないが、多くの利用状況が確認できたが、電子書籍を購入する際に、書籍ごとに貸出できるライセンスの問題や、そもそも新刊本や人気本は電子図書にないなど、多くの課題が見受けられた。さらに、予算の確保が一番難しいとの問題点があった。

しかし、現在は配置されていない専任の職員を配置し、利用拡大に向けた広報活動など取り組み、授業と関連させることでより良い活用ができるのではと感じた。

5 視察の成果及び市政への反映等

Withコロナ時代の子どもの読書活動や学習機会の確保のため、子ども向け電子図書館は必要であると感じた。

本市の小中学校にある図書室も、図書館サポーターにより充実してきているが、図書室に行けない、図書館に行けない児童生徒もいるため、行かなくても24時間借りられるのは大きなメリットであるため、本市でも導入に向けて、学校現場と連携して検討していく必要がある。

都城市議会議長 様

提出日 令和 5 年 11 月 2 日

視 察 報 告 書

以下のとおり視察の報告をいたします。

委員名 杉村 義秀

4 視察の感想

コロナ化の中で仲々図書館に足を運べない
時代であり、これからの子供電子図書館がほしい
図書館に行かなくても 24時間借りられる
期限が来ると自動返却されるメリットが大さいのがよい

5 視察の成果及び市政への反映等

今後の都城市への導入も参考に
検討してほしい

都城市議会議長 様

提出日 令和3年11月17日

視 察 報 告 書

委員名 迫間 輝昭

以下のとおり視察の報告をいたします。

4. 視察の感想

11月12日 10時より、オンラインにて北九州市子ども電子図書館について
開設日令和3年4月23日オープン

北九州市は、目的としてコロナ時代の子どもの読書活動や学習機会の確保、小中学生に配備される一人一台のタブレット端末の活用策などを目的に、子ども向け電子図書館を開設。

子どもに特化した公立の電子図書館は全国初となっており、図書館に行かなくても24時間電子図書を借りられ、図書館には置けない学習支援に役立つドリル、参考書がある。

5. 視察の成果及び市政への反映等

電子図書館を設置には初期費用が安く、学校によってはタブレットを持ち帰りができるので自宅で電子図書が読めるので便利である。

本市でも中心市街地中核施設の図書館でも電子図書館を設置し、子ども達がタブレットで利用しやすくしたら良い。

都城市議会議長 様

令和3年11月17日

音堅良一

視察報告書

以下のとおり視察の報告をいたします。

4. 視察の感想

「北九州市子ども電子図書館」は、コロナウィルス感染症により、子どもの読書活動、学習機会の確保と、小中学校での一人一台のタブレット端末の活用などを目的とされ、子ども向けの電子図書館を令和3年4月に開設した。

利用者の範囲は、北九州市に居住、通学、通勤している者も含まれることで、大人の利用も可能となっており、利用者にIDとパスワードを交付するものです。

書籍にもよるが、導入の費用は、一作品500円から10万円を超えるものまで様々です。また、書籍ごとに貸し出しできるライセンスが出版社から付与されたため、一度に10人が貸し出ししたい場合は、10ライセンスが必要で、著作権が切れていれば、一度に何人でも貸し出しできます。

導入にあたり、システム初期導入費は、年間187万円と、電子図書費用として289万円となっており、更に、当館が業者へクラウド利用料として年間184万8千円支払っており、維持費も必要となります。

5. 視察の成果及び市政への反映等

電子図書館を設置した目的に、「コロナウィルス感染症により、子どもの読書活動、学習機会の確保をする」とありますが、ウィズコロナ時代に対し、本市でも検討しないといけない課題だと思えます。

しかし、ウィズコロナ時代への子どもの読書活動、学習機会の確保については、他にも対策があるように思えますので、情報収集して研究して参りたいと思えます。

また、もう一つの目的である小中学校での一人一台のタブレット端末の活用については、学校内やWi-Fiの整備されている施設等は利用可能ですが、家庭ではWi-Fiの整備に開きがあると思えますので、まずは、自宅でのWi-Fi整備を、子ども達に差が出ない様にどのようにしていくのかが一番の課題だと思えますので、検討が必要だと思えます。

都城市議会議長様

提出日 令和3年11月17日

文教厚生委員会視察報告書（感想等）

委員名 森 りえ

以下の通り視察の報告をいたします。

4 視察の感想

北九州市立子ども電子図書館についての視察であった。

今回はリモート視察ということで、事前に資料を調べておくなど、視察をする上での準備が必要だと感じた。

「電子図書館」なので紙媒体と違い、本棚があってその本が並んでいるわけではない。

「電子図書館」の仕組みが分かっていないと著作権の問題から期間限定で借りることができる回数も決まっていることから、読みたい本にたどり着けないことがあるかもしれないと思った。

「あおぞら文庫」は著作権フリーであったが、児童生徒にとっては難解だったり、著者名も知らない作品だったりしていることで、貸出が少ない理由も分析が必要だと思う。

読書好きの児童生徒にとっては、タブレットを使って読もうとするだろうが苦手な子にとってはどうなのだろう。北九州市内どこからでも読めるにしては、利用状況は多いとはいえない。

5 視察の成果及び市政への反映等

タブレットを使っての学習はページ教科書など支援の必要な児童生徒から使える。音声ガイドがあると読めるようになる児童生徒もいるかもしれない。

「電子データ化」する必要がある図書として都城市立図書館には「上原文庫」がある。「上原文庫」にはそこにしかない貴重な図書があるため、電子データ化を進めるよう提言したい。

都城市議会議長 様

提出日 令和 3 年 11 月 26 日

視 察 報 告 書

委員名 川内 賢幸

以下のとおり視察の報告をいたします。

4 視察の感想

コロナ禍で図書館が閉館される期間が多くなる中、DX推進にもつながる事業であると感じた。

限られた予算の中で子どもの読みたいに答えることができる手段としては非常に利便性は高く、24時間いつでも本を借りることができる点も今の時代にあっていると思う。

民間企業のサービスを利用することから、柔軟性は低いと感じたが、電子書籍を一から導入するよりも、手間も費用も抑えられている。

本市でも小中学校へのタブレット導入が始まり、子どもたちの置かれる環境は日に日に進んでいる状況。

そういった点を考えれば、デジタル化推進を掲げる本市でも一考の余地はある。

5 視察の成果及び市政への反映等

民間サービスを利用する事により、短期間で事業実施することができる点、予算規模が初期費用、電子図書費用合わせて約490万円で導入できる点など本市でも調査研究しやすい部分は成果であった。

一方で、増刷や新刊、市民要望となると、当然ながら予算が膨らんでいくことから、北九州市では予算取りに苦労していた。

本市で、同様の事業をするとすれば、手始めに北九州市のように子ども図書館から導入する手もあるが、時代の流れとして、全市民が活用できる規模で事業実施することが望ましい。

本市の場合、新図書館が完成して評価が高いことから、電子図書館の市民ニーズがどの程度あるかは、調査する必要がある。

コロナ禍で社会の常識が覆ることもしばしばある中で、図書館のあり方も今後の活用、方向性も含めて一考の余地はあると考える。